



2019.11.15

質疑

Q] 例題のシーケンスはほぼ全部スペードトランプの場合でしたが、ハートトランプの場合は違いがありますか？

A] 基本的には違いはありません。ただ例えば

1H-2C; 2D-2Hのあと2Sとスペードキュービッドから始まったとすると、レスポンドの方が2NTとトランプの内容が悪いと示せることになります。スペードトランプの場合は内容が悪いと示すのはオープナーだけの役割でしたがハートの場合はレスポンドにその役割が回ってくる場合があります。

Q] レスポンドの場合も2トップアナーがないときは悪いということになるのでしょうか？

A] そうです。

Q] 今までのキュービッド方式と大きく違う点は Q もキュービッドする点にあるのですか？

A] そうです。さらに大昔の方式でしたら A がボイドしかキュービッドしませんでした。それが1960年代終わりにイタリア式キュービッドと言って、A と K を区別せずにキュービッドする方式が出てきました (“The Blue Club” by Benito Garozzo and Leon Yallouze, Faber & Faber, 1969) これはあるスートに2ルーザーはないということが容易に確かめられるので、非常に便利な方法でした。今はこの方法が一般的というほどには広まっていませんが、使う人は広まりつつあり、違和感なく受け入れられているように見えます。

Q] A、K や Q がキュービッドの対象になることはよくわかりましたが、シングルトンやボイドはキュービッドの対象になるのでしょうか？

A] ルーザーのチェックには役立ちますが、パートナーのロングスートだと分かっているショートスートはそのスートのウィーナーの数に寄与することはあまりありません。だから基本的には、絵札 AKQ の方のキュービッドが第一優先となります。実際 AQxxx がシングルトンと向かい合ってもそのスートでのウィーナーが大きく増えることにはなりませんよね。しかし K があれば4~5トリックを期待してもおかしくありません。特にトランプフィットが5-3のときなど(このキュービッド方式のベース)ときは、ラフでなくそのスートだけでウィーナーをどれだけ出せるかが問題になります。

Q] ピクチャージャンプ(Rexford キュービッド (4) II)をしてハンドを示した後は何かコンベンションがありますか？

A] ピクチャージャンプをすると絵札が集中していることが表されるのですが、それでもなお正確な集中度を知りたいこともできます。そのためにアスキングビッドが工夫されています。YummyToe アスキングと Rexford は呼んでいますが、ピクチャージャンプの後4つのステップでアスキングビッドがあります：

1st STEP = YOUR SUIT ASKING (あなたのスートはどんなですか?)

2nd STEP = MY SUIT ASKING (ところで私の方のスートには何がありますか?)

3rd STEP = THEIR SUIT ASKING (相手のスートには何がありますか?)

4th STEP = OUR SUIT ASKING (トランプ) スートには何がありますか?)

となっていて(もちろん4のトランプはサインオフになるのでそれを除いてステップを勘定します)、ASKING への答え方は、

YOUR SUIT ASKING へは

1st STEP = A 抜け (= KQJx)

2nd STEP = K 抜け (= AQJx)

3rd STEP = Q 抜け (= AKJx)

4th STEP = J 抜け (= AKQx)

5th STEP = AKQJ ソリッド

MY SUIT ASKING へは

1st STEP = Q も J もなし

2nd STEP = J あり

3rd STEP = Q あり

4th STEP = QJ あり

THEIR SUIT ASKING へは

1st STEP = Q なし

2nd STEP = Q あり

OUR SUIT ASKING (トランプについて) へは

1st STEP = 2 トップアナーのみ

2nd STEP = 2 トップアナー + J

3rd STEP = AKQ あり

4th STEP = AKQJ

これらアスキングビッドはピクチャージャンプで示されたハンドの内容をさらに精密に示せるように工夫したもので、これらによってハンドがほとんど正確に判ってしまいます。ただし、このアスキングビッドは少なからず複雑なので、私の考えではこのコンベンションにとって必須のものとはまでは言えないと思います。